

日本で社会的インパクト評価を推進するための提言

2016/6/14

社会的インパクト評価イニシアチブ 設立準備事務局

日本ファンドレイジング協会 社会的インパクトセンター長／事務局長

鴨崎貴泰

政府の基本方針に社会的インパクト評価の推進が明記
(2016年6月2日閣議決定)

経済財政運営と改革の基本方針2016～600兆円経済への道筋～
(骨太方針)

※社会的インパクト評価の推進が日本の歴史上初めて明記

成果志向の事業遂行を促進する社会的成果（インパクト）評価の推進や民間資金の活用により、複雑化・多様化する社会的課題解決の取組に民間の人材や資金を呼び込み、民間の公益活動の活性化を図ることで、活力あふれる共助社会づくりを推進する。

日本において社会的インパクト評価を推進する上での課題

ワーキング・グループの議論では、インセンティブや必要性の認識の欠如、実践に必要なスキル・知識や支援の欠如、評価の質に関わる課題が挙げられた

課題	インセンティブ、 必要性の認識の欠如	スキル・知識、資源、 支援の欠如	評価手法の乱立、 評価の質の低下
WGで 挙げられた 課題	<ul style="list-style-type: none">• 意義や必要性に対する理解の不足	<ul style="list-style-type: none">• 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足• 手法に対する理解の不足• 評価人材の不足• 評価コストの負担や支援の在り方	<ul style="list-style-type: none">• 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足

課題解決に向けて必要な対応策

日本では今後民間が主導し総合的に施策を展開してゆく必要がある

※太字は1年以内に着手が必要な取組み

対応

やる気にさせる

インセンティブの付与、
必要性の認知度向上

実施を支援する

評価ツール・
支援プラットフォームの整備

質を担保する

ガイドラインの策定・
ベストプラクティスの共有

WGで
挙げられた
対応策

- **社会的インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催**
- 分野ごとの業界団体への要請
- 制度的なインセンティブの構築、等

- **評価に関する用語の邦訳と定義の明確化**
- **海外の先行文献のリスト化を主要文献の邦訳化**
- **日本語による「ロジック・モデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備**
- **評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施、等**

- **評価事例の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化**
- 「Shared Measurement」の推進、分野ごとの指標の作成
- 社会的インパクト評価に関する専門のポータルサイトの立ち上げ、等

↑ ↑ ↑
**評価推進に関するイニシアチブの立上げ
関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成**

取り組みの紹介： Inspiring Impact

社会的インパクト評価推進にあたっては、民間の推進プラットフォームであるInspiring Impactが中心的な役割を果たしている



ビジョン： 2022年までに質の高い社会的インパクト評価をソーシャルセクターに普及させる

参画団体：



Association of
Charitable
Foundations

業界団体
(助成財団)



National Council
of Voluntary
Organizations

業界団体
(非営利組織)



Building Trust
Change

非営利組織向け基金



Charities
Evaluation
Services

評価機関



Evaluation
Support
Scotland

評価機関



New
Philanthropy
Capital

シンクタンク



Substance

シンクタンク

- 事業内容：**
1. 社会的インパクト評価の啓発（対事業者および対資金提供者）
 2. 社会的インパクト評価の実践支援（Measuring Up!、Impact Hub）
 3. 社会的インパクト評価の標準的な評価ツールの開発（Shared Measurement）

取り組みの紹介： ロードマップ

ロードマップが関係者間の合意で作られた上で、戦略的に施策が実施されている

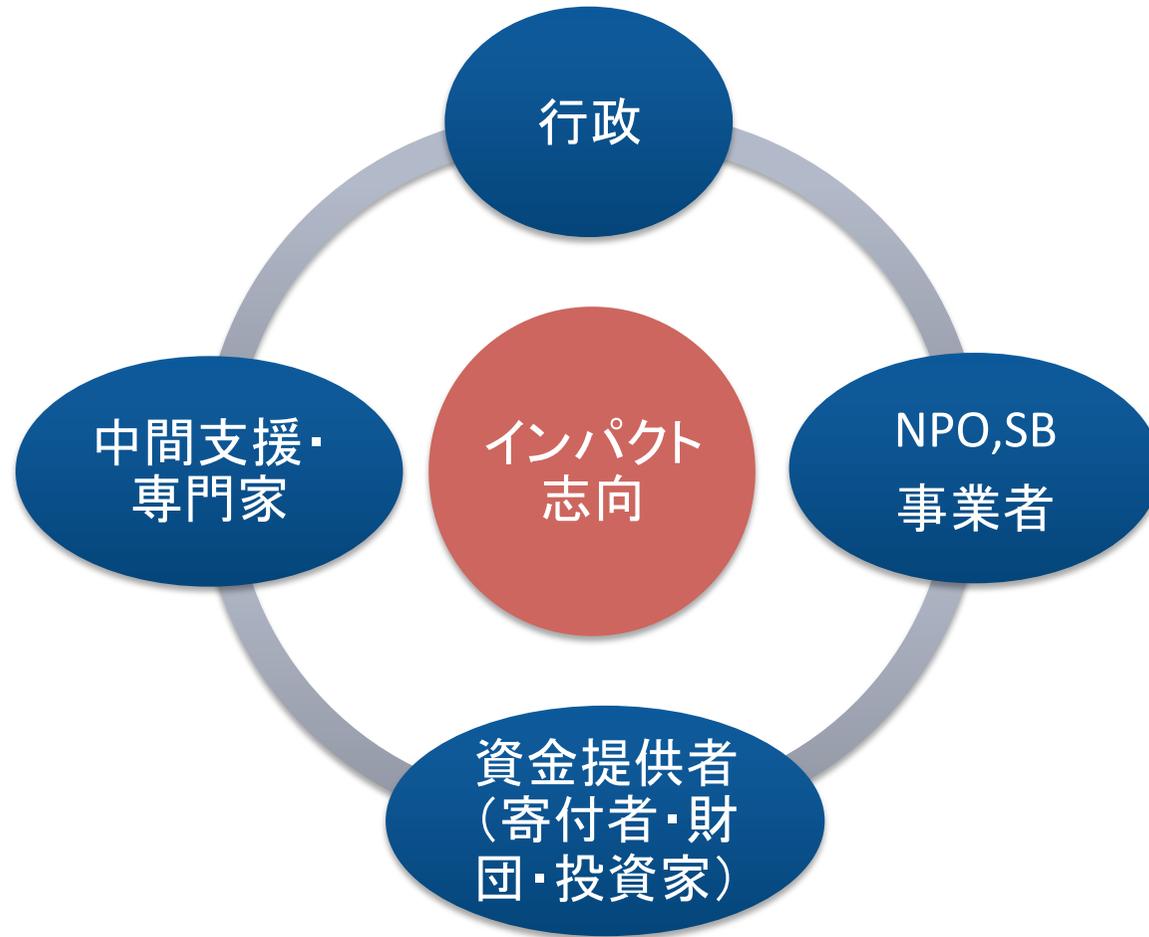
	2012年		2013-15年		2016-22年		10年先の目標
リーダーシップとカルチャー	インパクト測定のエビデンスを構築する	インパクト評価の原則を開発する	インパクト評価の原則を受け入れる	増加するインパクトアプローチへのコミットメント	多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる		何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。 自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。
ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&I)	業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す	インパクト・アプローチのケースを創る	ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる	インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援	ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている	インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー	ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。 インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。
社会的インパクト評価支援 (IMS)	共通診断/自己評価が利用可能	インパクト評価アプローチに関する簡単なガイダンスが利用可能	組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる (明確なアクセスポイントを経由して)	支援のイパ外がレビューされ、その価値が知られている	多くの組織が、自分が必要とするD,T&Sの支援にアクセスする		効率的な支援のネットワークが存在する。 分野別アプローチにリンクしており、ベストプラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。
データ、ツール、システム (D, T&S)	ツールに関するガイダンスを提供する	ツールのベネフィットや挑戦をレビューする	SMのD,T&Sが広範に利用可能	プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている	D,T&Sの利用が規範・標準となっている		適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。 それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。
Shared Measurement (SM)	SMを複数の分野でテストする	SMの原則に同意する	SMチャンピオンとスポンサーが契約する	F, C&Isによって活用されるSM	SMが傘下の組織、アカデミック、プロバイダー、ファンダー、コミッショナー、投資家の規範・標準となっている		Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。 標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。
				Inspiring Impactが実施すべき優先事項	Inspiring Impactが実施できる優先事項	Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項	

出所：社会的インパクト評価検討WG「社会的インパクト評価の推進に向けて」内閣府 共助社会づくり懇談会（2016年）を参考に一部改変。

直近で必要な取組み

- 1. 評価を推進する「社会的インパクト評価イニシアチブ」
（日本版Inspiring Impact）の立ち上げ（本日発表！）**

日本をインパクト志向に変革するためにはステークホルダー
全てがインパクト志向になる必要がある



社会的インパクト評価イニシアチブ設立検討会合（2016年6月2日）

約30団体の代表による意見交換を実施



イニシアチブ設立発起メンバー（※2016年6月14日時点 順不同）

事業者、資金提供者・仲介者・行政、中間支援組織・シンクタンク、評価者・研究者によって共同運営されるプラットフォーム

事業者

<NPO、ソーシャルビジネス>
チャンス・フォー・チルドレン、育て上げネット
<企業>
日本IBM

資金提供者・
仲介者

日本財団、トヨタ財団、パブリックリソース財団、あいちコミュニティ財団、佐賀未来創造基金、ソーシャル・インベストメント・パートナーズ、ARUN、KIBOW、コミュニティ・ユース・バンクmomo
<行政等>
内閣府、経産省

中間支援組織・
シンクタンク

助成財団センター、新公益連盟、SVP東京、日本公共政策研究機構、RCF、新日本監査法人、Publico、ファンドレックス

評価者・
研究者等

日本評価学会、SROIネットワーク・ジャパン、日本ファンドレイジング協会、G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会、公共経営・社会戦略研究所、粉川一郎（武蔵大学）

直近で必要な取組み

2. 課題への対応策をもとにロードマップを作成（9月末発表）

日本版社会的インパクト評価ロードマップ作成プロジェクト始動

ロードマップが関係者間の合意で作られた上で、戦略的に施策が実施されている状態を実現します。

	2012年		2013-15年		2016-22年		10年先の目標
リーダーシップとカルチャー	インパクト測定のエビデンスを構築する 業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す	インパクト評価の原則を開発する インパクト・アプローチのケースを創る	インパクト評価の原則を受け入れる	増加するインパクトアプローチへのコミットメント インパクトリーダーシップが実践される	多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる		何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。 自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。
ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&I)	インパクトファンダーのコミュニティを形成する インパクト評価からの失敗と学習のスペースを創出 ファンダーは、自身及び投資先に対するインパクトアプローチの価値を認識する	20のファンダーが評価宣言にサイン 助成先に対するインパクト評価支援の原則及びガイドラインが存在する 増加するF, C&Isに対するインパクト評価へのコミットメント	ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援 インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー	コミッショナーは、実際（歴史的な）の業績に対する目標をデザインしている ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている	ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている		ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。 インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。
社会的インパクト評価支援 (IMS)	共通診断/自己評価が利用可能 用語について合意（インパクト、アウトカム、アウトプット）	インパクト評価アプローチに関する簡単なガイドランスが利用可能	組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる（明確なアクセスポイントを経由して） 多くの組織が、インパクト評価アプローチや、使用するD,T&Sの開発方法を知っている	支援のイパ/外がレビューされ、その価値が知られている 多くの組織が、自分が必要とするD,T&Sの支援にアクセスする	効率的な支援のネットワークが存在する。 分野別アプローチにリンクしており、ベストプラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。		
データ、ツール、システム (D, T&S)	ツールに関するガイドランスを提供する D,T&Sの市場を育成	ツールのベネフィットや挑戦をレビューする 政府のデータ共有のパイロット事業	SMのD,T&Sが広範に利用可能 データ共有の青写真	プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている 法令により公開され、アクセス可能な政府の主要データ	D,T&Sの利用が規範・標準となっている 政府のデータにアクセスすることが、標準となっている		適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。 それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。
Shared Measurement (SM)	SMを複数の分野でテストする SMのベネフィットと課題をレビューする	SMの原則に同意する SMの青写真に同意する	SMチャンピオンとスポンサーが契約する	F, C&Isによって活用されるSM 役に立つエビデンスとの連携によって、組み込まれたSM	SMが傘下の組織、アカデミック、プロバイダー、ファンダー、コミッショナー、投資家の規範・標準となっている		Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。 標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。

Inspiring Impactが実施すべき優先事項

Inspiring Impactが実施できる優先事項

Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項

出所：社会的インパクト評価検討WG「社会的インパクト評価の推進に向けて」内閣府 共助社会づくり懇談会（2016年）を参考に一部改変。

直近で必要な取組み

3. 社会的インパクト評価に関する専門のポータルサイト公開 (本日発表！)

社会的インパクト評価ツールや実践マニュアル、
ケーススタディを集約して公開します。

社会的インパクト評価とは ケーススタディ ライブラリー 最新情報 私たちについて お問い合わせ

社会的インパクト評価イニシアチブ

BETA

本サイトは、国内外における社会的インパクト評価に関する情報を集約したウェブサイトのベータ版であり、NPOや社会的企業等が社会的インパクト評価を実施する際に参考となる成果指標、事例及び最新情報などを得ることができます。
将来的には、社会的インパクト評価結果を各組織が投稿できる分野横断的な事例データベースを整備するなど、より広範に活用できることを目指します。

社会的インパクト評価とは？

社会的インパクト評価とは
ABOUT

社会的インパクト評価の考え方や進め方、分野別成果指標など、実際に社会的インパクト評価を行うための方法を整理しています。

詳しくみる

事例集
CASE STUDIES

実際に社会的インパクト評価を行った組織の概要や評価結果などを確認することができます。

詳しくみる

ライブラリー
LIBRARY

社会的インパクト評価に関する国内外のレポートやツール、組織や参考となるWEBサイト等関連する情報を整理します。

詳しくみる

www.impactmeasurement.jp

【問い合わせ先】

社会的インパクト評価イニシアチブ 設立準備事務局

E-mail: info@impactmeasurement.jp

Web: www.impactmeasurement.jp